



## 「住み慣れた地域でその人らしく最期まで」 住み切るためのケア・住まい・地域

キーワード

高齢者福祉、エイジング・イン・プレイス（地域居住）

### 研究内容

デンマークにおける高齢者福祉の調査（1997年）をきっかけとして、「住み慣れた地域でその人らしく最期まで」というエイジング・イン・プレイス（Ageing in Place 地域居住）についてケア・住まい・地域づくりの側面から研究しています。

ヨーロッパ諸国では戦後の福祉国家における制度・専門職に重点をおいたサービス提供から、地域で支え合う参加型ネットワーク社会へと大きくパラダイム転換しています。この転換は、個々人の「Well-being（幸福）」を見極めた上で、地域の多様な資源を活用していく動き（Asset-based Approach）とも連動し、地域包括ケアともシンクロナイズしています。ボランティアやインフォーマルな資源の活用が盛んになると、次の段階として、専門職とどのように協働していかという課題が生まれ出てきます。

以上のような問題意識に基づいて、海外の現地調査結果を情報発信し、小規模多機能型居宅介護、定期巡回随時対応型訪問介護を中心とした訪問調査、インタビュー調査、アンケート調査等を行い、地域包括ケアの推進に必要な要素についてミクロ・メゾ・マクロの視点から提言しています。



松岡洋子の研究に関する著作

### 関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・松岡洋子著（2001）「老人ホームを超えて」クリエイツかもがわ
- ・松岡洋子著（2005）「デンマークの高齢者福祉と地域居住：最期まで住み切るケア力・住宅力・地域力」新評論（居住福祉学会賞）
- ・松岡洋子著（2011）「エイジング・イン・プレイスと高齢者住宅：日本とデンマークの実証的国際比較研究」新評論
- ・松岡洋子（2014）「地域居住（Ageing in Place）と日本への視点」『社会保険旬報』2572, pp. 24-29
- ・松岡洋子（2015）「エイジング・イン・プレイスと住まいとケアの分離：地域包括ケアの示唆」『老年社会科学』36-4, pp. 439-445
- ・松岡洋子（2020）「オランダの医療保険・介護保険とインフォーマル資源活用」『社会福祉研究』138, pp.86-93

### 社会連携・産学連携の可能性

各種社会調査、および、調査にもとづく地域づくり（地域住民の協議会形成など）支援、高齢者住宅コンセプトメイクなどで産学協働の可能性ががあります。